第3種郵便物認可　日刊スポーツ　2011年(平成23年)6月27日　月曜日

石巻市の日和山公園でNHK「SONGS」収録

音楽家長渕剛（54）が26日、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県石巻市内の日和山（ひよりやま）公園で、NHK総合「SONGS」（水曜午後10時55分）の収録を行った。震災から3カ月以上が経過したが、この悲劇を忘れず、後世に伝えるためにと、雨が降り続く中、未来を担う地元小学生ら総勢約1000人とともに「TRY AGAIN for JAPAN」を歌い上げた。この模様は7月13日放送予定。

「TRY AGAIN for JAPAN」

雨の中、ツンシー　石巻市を訪れ1000人と熱唱する長渕剛　◆石巻の海を望む日和山公園に集まった市民

長渕1000人と復興の歌

7月13日放送

収録が行われた日和山公園は標高60・4メートルで、石巻市内を一望できる。あの日、この公園には大津波から逃れるために多数の市民が避難した。そのひとの目の前で、太平洋側の門脇町と南浜町は津波にのみ込まれ壊滅した。いまもがれきの街が広がっている。

復興は1歩ずつ始まっているが、その一方で、地震や津波の恐ろしさは原発事故や政治の混迷ごとり、少しずつ記憶の中から遠ざかり始めてもいる。そのため、「海は静かになったが、忘れてはいけない」と思う長渕は、その悲惨な光景をバックに「SONGS」の収録に臨むことにした。

子供たちと

長渕は震災直後からどんな時代でも子供の声や笑顔は希望。だから未来を担う子供たちと一緒に歌いたいと考えていた。日和山公園での歌唱曲TRY AGAIN for JAPANは、昨年秋に発表したアルバム「TRY AGAIN」の収録曲で、再び立ち上がる強い思いが歌われている震災後に、長渕はこの曲をゴスペル調にアレンジし、プロのコーラスだけでなく、子供たちの声とともに収録し直した。「絆の糸は切れやすいが何本もよっていけば、強くなる。声も1つ2つと重なると強くなる。その声の粒を集めて復興の歌を歌いたい」。

被災地をRUN

とんぼ&乾杯

その重なる声の中が、未来を担う子供たちだった。日和山公園での収録には、プロやアマチュアのコーラス70人に、石巻の児童約100人、そして、収録を知って集まった市民約800人の計1000人が参加した。雨にもかかわらず、全員で熱唱した。長渕は収録後、感謝の気持ちと高揚感から、予定外の「とんぼ」「乾杯」をギター1本で歌い上げた。「どんな大きなイベントより、国の絆を感じた。まだまだ時間はかかるかもしれないけど、日本人として一緒に頑張りたい」と話した。

被災地向けのラジオ続ける

■…長渕は4月上旬に被災地向けラジオ番組「長渕剛 RUN FOR TOMORROW～明日へ向かって～」をスタートさせた。当初は宮城、岩手、福島など7県10局だったが、今では北海道から沖縄まで計24局に増えている。長渕は「僕は（被災者の）代弁者にはなり得ないけど、どう立ち上がっていくのか歩幅を合わせて見つめたい」。ラジオでも放送されている「TRY AGAIN for JAPAN」は7月7日にドワンゴの着うたフルで配信開始。

長渕主な復興活動

▼敬文詩　4月3日に敬文詩「復興」を発表。「憎い、憎い」で始まる長編で、尊い命やふるさとを奪った津波を呪いつつ、ひるまない人間の絆と強さを表現した。

▼ラジオ　4月7日に被災地向け番組「長渕剛 RUN FOR TOMORROW～明日へ向かって～」がスタート。

▼自衛隊激励　4月16日に航空自衛隊松島基地（宮城）で、約1500人の自衛隊員の前でライブを行う。過酷な任務で被災者を支援する隊員を激励した。